

## 博士學位論文審査要旨

2011年1月8日

論文題目： 上海における高齢者福祉サービスシステムの構築  
—介護の社会化を図る地域包括ケアを中心に—

学位申請者： 徐 榮

審査委員：

主 査： 社会学研究科 教授 埋橋 孝文

副 査： 社会学研究科 教授 上野谷 加代子

副 査： 広島国際大学医療福祉学部 准教授 包 敏

要 旨：

本論文は E. Litwak の「バランス理論」と「機能分担理論」を援用し、また、日本の地域包括ケアから示唆を得ながら、上海の「9073 モデル」の代替案としての独自の高齢者福祉サービスの構築を探究するものである。上海の家庭支援、施設支援、社区支援のそれぞれの問題点を、市老齡科学センターの追跡調査や申請者自身の社区サービスおよびケアワーカーへの2回にわたる独自アンケート調査を通して実証的に明らかにしている点が評価される。

本論文は序章、1～6 章、終章から構成されている。序章、1 章は先行研究の検討をおこない、本論文の検討課題（1. 生活現状とニーズの検出、2. 9073 モデルの現状と課題の明確化、3. 「地域包括ケアシステム」の必要性和枠組みの提起）を導出している。

2～4 章は①家庭支援、②施設支援、③社区支援それぞれの体系のもつ現状と課題を現地調査を通して明らかにしている。つまり、①家族が高齢者をケアする時間がとれないこと、②需要と供給のミスマッチ、③トップダウンの運営と民間資源の活用不足、などである。5 章ではケアワーカーの介護能力の評価をおこない、6 章、終章では日本の地域包括ケアを検討し、上海におけるその導入の必要性和その際の課題をまとめている。

本論文は、①上海の高齢者福祉サービスについて、社会的ケアだけでなく私的ケアをも視野に入れ全体的に考察したこと、②バランス理論を上海のケースに適用し、また、日本の地域包括センター方式の上海での有用性を提唱している点にオリジナリティがみられ、本格的な研究としてきわめて価値が高い。

よって、本論文は、博士（社会福祉学）（同志社大学）の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。

## 総合試験結果の要旨

2011年1月8日

論文題目： 上海における高齢者福祉サービスシステムの構築  
—介護の社会化を図る地域包括ケアを中心に—

学位申請者： 徐 榮

審査委員：

主 査： 社会学研究科 教授 埋橋 孝文

副 査： 社会学研究科 教授 上野谷 加代子

副 査： 広島国際大学医療福祉学部 准教授 包 敏

要 旨：

2011年1月8日(土)午後4時30分から5時30分まで溪水館1階会議室において学位申請者による公開学術講演会をおこなった。その後上記審査委員3名は、6時50分から8時まで溪水館107号室にて、1時間10分にわたり申請者の口頭試問をおこなった。

申請者は本論文の内容についての的確に答え、また、日本・中国の福祉サービスの現状と課題や社会福祉政策研究の関連領域に関しても博学な知識と深い理解をもっていることを示した。

また、同時間におこなった語学試験（英語、日本語）の結果、語学に関しても、優れた学力を有していることが確認された。

よって、総合試験の結果は合格であると認める。

# 博士學位論文要旨

論文題目： 上海における高齢者福祉サービスシステムの構築  
—介護の社会化を図る地域包括ケアを中心に—

氏 名： 徐 榮

## 要 旨：

本論文は、Litwak の「バランス理論」と「機能分担理論」を用いて、日本の地域包括ケアを参考にしながら、上海の「9073」モデルの代替案として、高齢者福祉サービスシステムの構築を探究するものである。具体的には4つの内容を中心に展開している。

①上海高齢人口の発展趨勢および特徴と高齢者の生活現状、養老ニーズを整理すること。

②「9073」モデルの下家庭サービス、在宅サービス、施設サービスの現状と課題を明らかにすること。

③「9073」モデルの代替案としての「地域包括ケアシステム」の必要性和枠組を検討すること。

④上海における「地域包括ケアシステム」の構築に向けての展望や課題を整理すること。

なお、本研究でいう「介護の社会化」とは「私的サービス」と「社会的サービス」がそれぞれ機能分担し、バランスよく組み合わされたサービス供給システムを社会制度化することをさす。

そもそも本研究で、なぜ「介護の社会化」に着目して上海の高齢者福祉サービスシステムの構築を検討するのかというのは、次のような問題意識がある。中国政府が1987年に初めて提出した「社会福祉の社会化」に基づいて、上海では「上海第11次民政事業の発展5カ年プロジェクト（2006－2010年）」において、「上海市の人口高齢化の進展に合わせた、『家庭を中心に、社区をよりどころとして、施設が補完する』養老福祉サービスモデルを構築する」という方針を打ち出した。具体的な数字を挙げれば、全市の戸籍高齢者の90%が自宅で自助あるいは家族・親族によるサービスを利用する、7%が自宅で在宅福祉サービスを利用する（サービス利用者目標数は25万人）、3%が施設に入所し、サービス（ベッドの設立目標数は10万床）を利用する「9073」モデルを形成する」という目標を定めた。これが「9073」モデルである。

しかし、現段階において上海の高齢者福祉事業が発展する中で問題点も多く生じる。まとめると、主に①高齢者のニーズとサービス供給とのアンバランス、②社会的サービスの供給が不足しているにもかかわらず、利用率が低いという矛盾が存在していること、③高齢者福祉サービスが要介護度の高い高齢者のニーズには対応できないことなど、3点を挙げることができる。

以上の問題の要因は、政策制定において高齢者福祉サービス提供の責任を負うことが家庭に傾き、サービス供給の家庭の外部化が十分に実現されていないことであると考えられる。それゆえに、「9073」モデルにおいて、インフォーマルサービス体系とフォーマルなサービス体系において、サービス供給がアンバランスになり、機能分担が十分行われていないという根底的な問題点が生まれた。そのため、本研究において筆者が提起したもっとも基本的な問題意識は、現在上海が提唱している「9073」モデルが今後の多様で複雑なニーズに対応できないのではないかということである。そして、この問題意識に基づいて、上記の問題点を解決するために、「9073」モデルの代替案として、どのような施策が考えられるのかというリサーチ・クエスチョンも生まれた。

本論文の構成は、序章と終章及び本論の6つの章からなる本論によって構成されている。

具体的には、序章では、本研究の背景と問題意識、研究目的や視点及び論文の構成を述べる。

第1章「理論の先行研究と研究課題」では、まず、養老方式に関する先行研究を通して、①家庭養老、②現行の社会的養老、③定量化の研究、④高齢者福祉サービスシステム、⑤立法研究な

ど5つの側面から先行研究の不十分点を指摘する。そして、福祉多元主義理論と実践及びそれに大きな影響を受けた中国の「社会福祉の社会化」理論とその実践を検討した上で、中国の「社会福祉の社会化」に基づいた「9073」モデルを分析すると、依然として私的サービスを重んじていることが見出された。また、日本型福祉社会論への検討を通して、現段階の上海の高齢者福祉事業はまさに日本型福祉社会の「自助努力」の轍を踏んでいることが分かった。高齢者福祉サービスの「社会化」という道に歩むために、日本型福祉社会の限界を見据え、日本で創設された介護保険制度、特に2005年改正後重視された「地域包括ケア」に注目する。そして、Litwakの「バランス理論」と「機能分担理論」に基づいて「9073」モデルを分析すると、上海の高齢者福祉サービスシステムの構築において、「私的サービス」と「社会的サービス」がバランスよく機能分担される必要性が確認できる。

第2章「上海の人口高齢化と高齢者福祉サービス事業」では、政府が公開したデータを通して、上海市の高齢人口の発展過程や現状、その特徴および今後の発展について紹介し、また上海市老齡科学研究センターが4回にわたって行った「上海市高齢人口の状況と意識（追跡）調査」の結果を通して、上海市の高齢者の日常生活の現状や直面している問題を検討する。その結果、①社区医療サービス、②精神的サポート、③多様なニーズに対応できるサービス、④高齢者家族への支援など、高齢者及びその家族への4つの側面においてニーズが見出された。また、上海人口高齢化の現状及び今後の発展趨勢から見れば、依然として「私的サービス」を中心とする「9073」モデルに限界性がみられる。

第3章から第5章までは「9073」モデルの現状と課題を検証する。まず第3章「家庭支援体系の限界」では、まずインフォーマル・サポート理論及び中国のインフォーマル・サポート体系及び家庭支援体系の概念と機能を整理した上で、上海市老齡科学研究センターが4回にわたって行った「上海市高齢人口の状況と意識（追跡）調査」のデータを用いて、上海の家庭支援体系の①経済的援助、②日常生活の世話、③精神的サポート、④親子世代間の互助・互惠機能について実証分析を行う。その結果、現段階においては上海の家庭支援体系の機能が果たされているが、今後様々な要因の交錯影響によって、これらの機能、特に「日常生活の世話」機能が低下し、家庭支援体系の限界が予想される。

第4章「施設支援体系のあり方」では、まず社会化しつつある上海市福祉入所施設の発展過程、運営方式とその現状を考察し、その問題点を明らかにする。そして、施永興らが行った上海市老年看護病院での調査データを用いて、入院高齢者の実態を明らかにし、その実質的な「社会的入院」に至る要因や問題点を分析した。その結果、「高齢者及びその家族への支援」という視点からみると、施設支援体系の援助機能は家庭支援体系より高齢者への専門性が高く優れているため、今後上海の施設支援体系のあり方として、専門性の高いフォーマルなサービスの供給へ重点を移転すべきであることを指摘する。

第5章「社区支援体系の可能性」では、筆者のアンケート調査を通して、政策制定者に人気があるにもかかわらず高齢者の多様なニーズに対応できない社区在宅福祉サービスの実態や課題および、社区医療サービスや「家庭病床」などの役割および問題点を明らかにする。その結果として、上海の社区支援体系における問題点は、「高齢者および其の家族への支援」という視点が欠けているため、家庭支援体系をサポートする役割が果たせておらず、高齢者がより充実した福祉サービスを利用できず、その家族の介護負担を軽減することもできないという限界である。

第6章「フォーマル・サービス体系の人的資源」では、まず中国の福祉業界のケアワーカーの国家資格を概観し、上海のケアワーカーに関する先行研究をレビューする。そして、フォーマルなサービスを提供するケアワーカーの介護能力に着目して、アンケート調査とインタビュー調査を通して、ワーカーの労働状況や介護能力（自己評価）を明らかにした上で、介護能力の影響要因を探る。その結果、①学歴、②従事期間（経験）、③資格という要因がみられた。最後に、その影響要因を考慮しながら、ケアワーカーの育成と確保の具体策として、「民主的な人事処遇考

課体制」、「研修体制」、「職能認定制度」により、人材を定着させ、魅力のある職場づくりを検討する。

終章「地域包括ケアシステムの必要性和枠組」では、上海市政府が打ち出した「9073」モデルにおける3つのサービス供給体系の特徴及び問題点及び、今後上海の人口高齢化の発展趨勢と高齢者のニーズを踏まえて、Litwakの「バランス理論」と「機能分担理論」に基づいて、3つのサービス供給体系の果たすべき機能を示し、地域包括ケアの必要性を明らかにする。また、日本で実践されている2つの地域包括ケアの現状と課題を考察し、上海の高齢者福祉サービスシステムへの示唆を示した上で、上海の実情に適合する地域包括ケアシステムの枠組を検討し、実施上に予想される課題と展望として財源と人材育成・確保を取り上げ、検討する。